

平成28年度 第2回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 平成28年11月24日（木）
2. 開催場所 北秋田市役所 3階 大会議室
3. 開会及び閉会 開会：午前10時00分 閉会：午後0時10分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
＜北秋田市教育委員会＞
委員長 永井 高道
委員 佐藤 正俊
委員 吉田 美樹
委員（教育長） 三澤 仁
5. 欠席者 委員 小林 真
6. 出席事務局員 ＜教育委員会事務局＞
教育次長 長崎 幸雄
総務課長 松橋 久司
学校教育課長 遠藤 元博
生涯学習課長 宮腰 正樹
スポーツ振興課長 水木 正範
総務課総務係長 三澤 忠博（書記）
7. 案 件
 - （1）平成28年度教育施策の実施状況（上半期）及び平成29年度における教育に関する重点施策について
 - （2）意見交換
8. 会議録

長崎教育次長	<p>ただいまから、平成28年度第2回北秋田市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>初めに、津谷市長よりあいさつをお願いいたします。</p>
津谷市長	<p>平成28年度第2回目の北秋田市総合教育会議の開催にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。日ごろから教育委員の皆様におかれましては当市の教育行政の推進に大変ご尽力をさせていただいて、この場をお借りしまして心から感謝申し上げます。新しい教育委員会制度の基に、昨年度から設置されております総合教育会議も今回で4回目ということでございます。当市ならではの教育施策を作り、子どもの教育環境を整えるというプロセスも概ね定着してきたと思っております。今日の会議では今年度に取り組みました各種事業の進捗状況の説明と来年度の重点施策を議題の中心といたしますが、教育委員の皆様からも忌憚のないご意見をいただきながら当市の教育の充実に結びつけて参りたいと考えておりますので、ご協力の方よろしくお願い申し上げます。結びになりますが、日ごろより教育委員の皆様には学校を見ていただいたり、子ども達と接触していただいて、北秋田市の未来を造る子ども達のために頑張っていていただいております。どうか更なる教育行政の発展に向けてこの会議が功を奏しますように心から祈念申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。</p>
長崎次長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>続きまして、永井委員長よりあいさつをお願いいたします。</p>
永井委員長	<p>改めまして、おはようございます。</p> <p>11月1日から22日まで市内15校の小中学校の学校訪問を終えました。そこで感じましたことは、全国的にも話題になっておりますがトイレの洋式化の問題です。それなりに設置されておりますがまだまだ縁遠い状況です。こういうところを何とか改善することできないのか、私どもも深く考えているところです。</p> <p>北秋田市全体をみますと、伊勢堂岱縄文館、それからコムコムの順調な開設、利活用ぶりなど喜ばしい状況がある反面、少子高齢化という現状をどのように受け止めて未来につなげていくのか、今日はそういう意味で私どもはいろいろと発言し、または提言いただければ幸いです。よろしくをお願いいたします。</p>

長崎次長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、早速ではありますが案件に入らせていただきます。北秋田市総合教育会議運営要綱により、議長は市長が行うことになっておりますので、津谷市長に案件の進行をお願いします。</p>
津谷市長	<p>今お話がありましたように、暫時の間議長を務めさせていただきますのでご協力よろしくお願いたします。</p> <p>それでは案件1の北秋田市教育大綱に基づく平成28年度実施状況及び平成29年度実施予定について、事務局から説明をお願いします。</p>
松橋総務課長	<p>それでは資料の方をご覧ください。</p> <p>こちらの資料は教育大綱区分に基づき作成しております。学校教育編、生涯学習編、スポーツ振興編という順番で各担当課長から説明して参ります。最初に、教育長から今年度から来年度に向けての教育施策全般に対しての報告がありますのでよろしくお願い致します。</p>
三澤教育長	<p>今年度の北秋田市の教育については、学校教育ビジョン、社会教育中期計画、スポーツ振興基本計画に基づいて進められておりますが、それぞれ概ね順調に推移していると思います。私からは今年度の状況についての概括を時系列でご説明いたします。</p> <p>最初は4月6日から北秋田市の小中学校がスタートしました。小学校数は鷹巣西小学校が減りまして、平成28年度は小学校10校、児童数1,234名。昨年度より28名減っております。中学校は5校、生徒数654名で昨年度より53名減っております。減少には歯止めがかからず、どんどん小さくなっているというのが非常に頭の痛いところでありますが、これについては小中学校の適正規模再編プランでご提案しておりますので後ほどお話いたします。</p> <p>不登校の児童生徒は、小学校2名、中学校9名の11名でスタートしました。現在は中学生が2名増えまして11名、合わせて13名です。リフレッシュ学園に6名、さわやか教室に2名、スペースイオ1名、保健室登校1名、在宅3名。在宅とは学校にも関係機関にも行けないで家にいる子どもが3名おります。</p> <p>2つ目ですが、あきたリフレッシュ学園開園式。今年度から事業主体が北秋田市になって学園を開園しております。これまで通り秋</p>

田県から3名の指導員を派遣していただきありがたく思っております。出発は園生4名で始まりましたが、地元は6名、北秋田市以外の県内から3名が来て、学校では経験できない様々な体験活動を通して心身ともに大きく成長しているところでもあります。

3つ目は、4月19日に行われた全国学力状況調査であります。各教科の平均正答率を全国、県、市と比較しております。国語A・B、算数・数学A・B、小学校6年生、中学3年生とも良好な結果を示しております。

1枚めくっていただきますと児童・生徒質問紙調査とありますが、相当の項目を生徒達に質問しておりますが、大きく「未来力」「自立力」「絆力」「実践力」という視点で項目を分けてみました。どの項目も全国・県の調査よりは大きな数値を示しています。例えば「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に、全国が71.1%に対して北秋田市は84.6%と、自分の夢や目標を持って学校生活に頑張っている。それから「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いも、小中学校とも全国平均を大きく上回っている。それから「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」とあるが、以前は秋田県の子ども達というのは人前でなかなか自分の考えを思うように発言することができませんでした。問いを発する子どもの育成、あるいは言語力の改善ということ、授業でも学校生活を通して堂々と臆せず自分の考えを発表することが出来るようになってきた。それから自立力では「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の問いに、小中学校とも大きく数値を上回っています。特に中学校においては全国平均が48.4%に対し、北秋田市の生徒は71.5%と、しっかりと勉強に取り組んでいる。それから「学校の授業の復習をしていますか」に対し、これも非常によく復習していることが分かります。それから絆力でお互いの心を結び合うという部分では、「学級のみinnで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか」についても大きく上回っています。「学校に行くのは楽しい」は、全くそのとおりであります。実践力では「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の問いは、小中学校とも現在キャリア教育を通して、学校を離れて地域に飛び込んで、地域のために何かしたい、何か貢献したいという子ども達が増えてきています。その他沢山ありますが、子ども達の姿が非常に良く育っているということがご理解いただけるかと思えます。

次は、埼玉共栄大学と教育実習等に関する協定書を締結しました。一昨年から埼玉共栄大学の学生達が北秋田市の小中学校で教育実習をしています。高い学力を示している秋田県の教育を直接身につけたいという大きな希望を持って学校の実習に励んでおります。平成28年度は合川小学校に2名、前田小学校に2名、大阿仁小学校に1名の計5名を受け入れて、8月29日から9月23日までの26日間、地元の宿舎に泊まって、一生懸命意欲的に教育実習に取り組んでおりました。この学生達は、秋の学習発表会に来て子ども達の姿を見て行きましたし、卒業式にも出席して自分の教えた子ども達の卒業を祝ってくれました。来年度は7名の実習生を受け入れることを約束しております。

5つ目、待望の伊勢堂岱遺跡縄文館の竣工をみました。11月17日現在、入館者は9,696人です。本来であればもっと入館者が増える予定でしたが、予期しない熊の遺跡への侵入がありまして、足止めとなり非常に残念でした。伊勢堂岱遺跡に関しては、市内の小中高校生達によるジュニアボランティア24名が遺跡や館内の案内を務め、非常に好評を博しております。これは、この資料「ジュニアボランティアガイドの活動のあゆみ」にもまとめられておりますが、来館者・来訪者には激賞されております。子ども達もこれに応援されて、一生懸命勉強してりっぱなガイドを務めており、来年も楽しみにしております。

6つ目、ふれあいプラザコムコムが完成いたしました。11月13日現在で入館者が13万5,461人です。これが出来てから研修室も市内の団体や愛好者、講座によって盛況を呈しております。

7つ目、チャレンジデー2016ですが、今回は3つの市で行われましたが、2年連続金メダルを獲得いたしました。来年度はもう少し周知徹底を図って、参加者を募って、北秋田市の市民がこぞってこれに挑戦する気持ちで更に上回りたいと思います。

8つ目、県外の子どもの教育留学生の受け入れについてです。最初に石巻市の中学2年生が合川中に留学したのに続いて、7名の児童・生徒が北秋田市の小中学校に来て、地元の子どもの達と仲良く学んでおります。現在も大阪から来た4年生が2学期いっぱい合川小学校において勉強、学校生活に頑張っております。留学生の感想を尋ねてみると、「非常に授業が活発で、子ども達が元気だ」「授業中は積極的に手を挙げ発表していて、こういう姿をみてびっくりした」ということです。自分たちの学校では、先生が「静かにしな

い」とばかり言う。その点、北秋田市の小中学校はグループ学習においても、自分の意見を積極的に発表して問題解決をしている。そういう学習をみて、自分も帰ったら北秋田市の子ども達に負けないように取り組んでみたいと抱負を述べていました。

9つ目、北秋田市立小中学校適正規模再編プランについては現在も進めておりますが、検討委員17名で今まで2回の検討委員会を開催し、それに基づいて6地区と2保育園、2PTAで説明会を実施しております。パブリックコメントも広報で発表しましたが、4名の方々からコメントをいただいております。中には、栃木県の方から「私は子どもの頃、中村小学校で学んだ者である。」ということで、当時のことを思いながらも今回の再編プランについて自分の考えを述べてくれています。このパブリックコメントや地区の説明会でいただいた貴重なご意見を検討委員会でも説明しながら、十分に住民・市民の声を尊重して進めて参りたいと思います。昨日の新聞でも、市長が記者会見の中で学校再編についてお話ししておりますが、着地点を決めず柔軟に対応していくと、決して住民の意志や考えを無視して教育委員会・検討委員会の方針を進めて行くわけではありませんので、この点も併せて住民に説明しながら、安心していただきたいと思います。

10番目は、ALT辞令交付についてですが、今までは5名のALTでしたが、平成30年度以降に小学校3年生から英語活動、英語授業が実施されますので、それに備えて新たに2名のALTを加え7名で小中学校の英語指導を実践しております。県内の市町村をみますと秋田市は20数名と例外ですが、7名は他の市町村と比べてトップクラスの配置です。この7名のALTに加え、5年間市のALTを務めたショーオン氏がアドバイザーとしてALTの様々な相談や英語指導にあたり、非常によい結果を生んでおります。

11番目、第41回全国遺跡環境整備会議が北秋田市で開催され、北は北海道から南は熊本県までの委員65名が参加し、基調講演、事例報告、パネルディスカッション、情報交換など非常に盛況を呈して、とても良い会議になりました。多数の方々も北秋田市に宿泊していただきまして、ありがたいと思っています。

次は、理科・社会科研究発表会です。これは市の合併前から行われておりますが、各地域の全ての小学校から子ども達が参加して堂々と自分の研究成果を発表してくれました。理科発表では、発表題が92題、発表者数121人。社会科発表では、発表題が48題、

<p>津谷市長</p>	<p>発表者数が69人。保護者、祖父母が子ども達の発表を一生懸命聞いてくれて、非常に良い光景でした。</p> <p>次に、第42回秋田県PTA研究大会大館北秋田大会が北秋田市文化会館を会場に行われ、参加者63人が市内に宿泊しております。</p> <p>次に、伊勢堂岱ジュニアシンポジウム。小中高校生のジュニアガイド達が、体験したことを発表してくれました。ワーキンググループも加えて市民の方々が50名ほど参加し、子ども達の貴重な意見に耳を傾けてくれました。</p> <p>最後は、第11回浜辺の歌音楽祭です。これは4町の合併を機に、合併の垣根を子ども達が先頭に立って融和を図ることで始められたものですが、現在非常にレベルが高くなり、すばらしい合唱が聴けるようになりました。</p> <p>以上、かいつまんでお話ししましたが、成果・課題として5点ほど挙げております。</p> <p>先ほど教育委員長から学校訪問で感じた学校の状況、子ども達の良い姿を見られたと思いますので、後ほど各委員からもお話をしてくれると思います。</p> <p>今年度は各種大会や各種会議、教育実習生、留学生が北秋田市に来ておりますので、市の交流人口の増加に些か貢献したのではないかと考えております。</p> <p>課題としては、学校管理下における事故防止で、学校でもいろいろ指導はしているのですが、体育の授業や部活動において事故が起きているというのが現状です。</p> <p>それから、昨今新聞でもいじめによる記事が報道されておりますが、北秋田市ではいじめの根絶に向け「いじめゼロサミット」を毎年開催して、小中学校でどのような対策を講じていじめの根絶に向けて取り組んでいるか発表してもらい、徐々にその成果が上がっております。</p> <p>それから、児童生徒数は減っているのですが、依然として不登校児童生徒数は横ばいの状況にありまして、これの保護者への指導、児童生徒への対応を学校と連携しながら大事に進めて参りたいと思います。</p> <p>続いて学校教育課長、お願いします。</p>
-------------	---

<p>遠藤学校教育課長 松橋総務課長</p>	<p><資料：学校教育編の説明></p>
<p>津谷市長</p>	<p>ただ今「学校教育編」について学校教育課、総務課から説明いただきましたが、何かご意見やご質問を頂戴したいと思います。何かございませんか。</p> <p>それでは私から一つ質問しますが、学校サポーターについて、先日秋田県と市町村長との協働会議の中でも、各市町村から昔は1校に数人位で済んでいた学校でも人数がどんどん増えてきて、各市町村レベルの財政ではとても耐えられないのではないかということで、県でももう少し頑張ってもらいたいということで考え方が一致しましたので、県教委の方に要望していきたいと思います。情報提供です。</p> <p>「学校教育編」については、現在の状況と、来年度重点的に取り組むべき内容を確認させていただきました。</p> <p>続きまして「生涯学習編」をお願いします。</p>
<p>宮腰生涯学習課長</p>	<p><資料：生涯学習編の説明></p>
<p>津谷市長</p>	<p>それでは、ただ今の説明に対しましてご意見、ご質問はありませんか。</p>
<p>永井委員長</p>	<p>例えば、長岐邸の活用について、親方に集まろうとか、いろいろな助成金を活用して活動が行われているけれども、関係者の話ではあのままの状態ではとても維持管理していくことが不十分だということで、応分の予算を計上して補修とかやってもらわなければいけないという声があるのですが、そのようなことについてはどう対応していますか。</p>
<p>宮腰生涯学習課長</p>	<p>長岐邸については、文化財管理事業の中で行っております。また、以前から屋外トイレの話がありまして、29年度に設計を委託して、30年度に建設する予定です。</p>
<p>永井委員長</p>	<p>もう一つ、阿仁の古民家の維持管理に関係者が非常に苦勞しているということで、できれば県とか市に寄贈して自分たちの家屋を継続して管理していければいいという意見を持っている人もいるみ</p>

	<p>たいです。このような所の受け入れは、ある意味ではしやすいかもしれないが、維持管理となると莫大な予算を必要とし非常に厳しいので、今後そのような要望等出てくるとは思います。そのような要望や要請を聞きながら整備の方向性を出していかなければいけないと思います。</p>
<p>宮腰生涯学習課長</p>	<p>永井委員長から話しがあったのは、内陸線再生支援室で公開していた宮越商店などのことだと思いますが、文化財保護委員の方々と相談しながら進めて参りたいと思っております。</p>
<p>津谷市長</p>	<p>他にありますか。佐藤委員。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>学校教育課とも関係あると思いますが、子育て支援事業、新規の家庭教育支援チーム推進事業はとても大事でないかと思いました。というのは、支援を必要とする子どもが多く、増えているのが訪問していて感じています。中には本当に側にいて付きっきりで支援しないといけない子どももいるし、だんだん学年が進むにつれて良い方向に向いて行っている子どももいました。この家庭教育支援チーム事業を充実させていただかないと、そういう子どもが益々増えていく傾向にあるなと思いました。どうか子育て世代ふれあいプラザも併せて、そういう親たちの教育も大事ではないかと思います。今の若い世代の親たちの子育てが心配です。核家族になって、祖父母がいない中で、子どもがある面ではほったらかしになっている。この間ニュースになっていたが、携帯電話のゲームや動画で遊ばせておいて、親は別の仕事をしている。どうも愛情が薄れていっているなという気がします。できれば子育て世代のふれあいプラザを利用しながらしっかりした子育てをしていけば、もう少し良い方向に向いていくのではないかと思います。</p>
<p>遠藤学校教育課長</p>	<p>まさしく佐藤委員が言ったことが増えている原因と言われていて、昔に比べれば発達障害とか何らかの障害を持った子どもが多く生まれているわけではないということです。だけれども我慢できなくなったり、忍耐力が欠けたり、人前でどういう振る舞いをするか、というのが親や家族から指導される機会が薄れてきている。しつけの面で新チームを立ち上げるところで、家庭教育の中に含めて親の教育も必要なのかなと思います。</p>

佐藤委員	サポートされる方々は他市町村に比べると本市は恵まれていると感じています。その点では評価したいと思います。
津谷市長	他にありますか。 それではただいま協議いただきました「生涯学習編」についても、現在の状況と、来年度重点的に取り組むべき内容を確認させていただきました。最後に「スポーツ振興編」について、スポーツ振興課長よりお願いします。
水木スポーツ振興課長	<資料：スポーツ振興編の説明>
津谷市長	それでは、ただいまの内容について質疑を受けたいと思います。
佐藤委員	チャレンジデーですが、参加者が少しずつ増えて良いことだと思っていますが、呼びかけの方法は広報やポスターの他にはどのようにしていますか。
水木スポーツ振興課長	全自治会長に文書による要請をしています。各企業についても、小規模事業所は文書だけになりますが、10人以上の事業所については1軒ずつポスター等を持ってお願いに伺っています。
佐藤委員	コムコムに13万5千人以上の方々が利用しているが、そこはポスターだけですか。例えば、スポーツ振興課の職員がいてしっかり宣伝できるようにするとか、ティッシュペーパーを配るのも一つの方法かなと思います。また、市日にテントを張って、旗を立てて宣伝するのも一人一人に伝わるのではないかなと思います。
水木スポーツ振興課長	コムコムには幟を設置したりチラシを置いたりしていますが、職員の配置はしていませんので、体制的にやれるかどうか分かりませんが、来年度以降計画的にやっていきたいと思います。
佐藤委員	毎日でなくても、週1回でも職員がいれば意気込みが感じられるのではないかと思います。
水木スポーツ振興	コムコムのイベントを調べて、人が集まる機会に行いたいと思

課長	ます。
三澤教育長	新体育館の話がありましたが、この場所が適切だとかという候補地はあるのですか。
水木スポーツ振興課長	体育館に関しては鷹巣地区に建てるべきだと考えていますが、ただ鷹巣地区は低地で浸水区域が多いので、7号線の方まで上がるのかなと思うが、そうすると集客の点で厳しいところがあります。現在は、国の米代川整備状況を踏まえ、整備の終わっている上流の方になるのかなと思っています。
三澤教育長	大変収容能力のある施設だが、水害の時に避難場所になれないというのは考えなければと思います。
津谷市長	他にありますか。
吉田委員	チャレンジデーについて、男女の参加割合の統計は出していますか。
水木スポーツ振興課長	集計の段階で、各自治会や事業書からは男女別ではもらっていなかったの、来年度からは全員の名前と住所を提出してもらおうと思っています。来年度以降は集計できると思います。
吉田委員	先ほど自治会長に文書を出しているとのことでしたが、自分のところの自治会では全く活動が見えなくて、自分で婦人会の方に案内を出して、その日に婦人会の支部長会議をぶつけて参加してもらっています。自治会に文書一つだけだとなかなか腰があがらないのかなと思います。
水木スポーツ振興課長	自治会長には文書の他にチラシを配布して、必要であれば幟を貸し出しています。会長の裁量が大きいとは思いますが、あまりしつこく言うのもどうなのかなと思いますので、来年度以降は文書だけでなく、個々に回ってみるのも必要かなと思っています。
長崎次長	先ほど佐藤委員が言ったティッシュペーパーとかの取り組みはどうなっているのか。

<p>水木スポーツ振興課長</p>	<p>ティッシュペーパーに関しては、チャレンジデーの本部から送られてきますが、ギリギリにならないと来ないことから、チャレンジデー当日の買い物ウオーキングで配布して、来年度もありますという呼びかけになっています。4月から参加受付して5月の最終水曜日開催ということで、本部から来るのが遅くなりますが、佐藤委員の言うとおりもっと早くからの配布することを来年から考えていこうと思います。</p>
<p>宮越生涯学習課長</p>	<p>今スポーツ振興課長から体育館の建設の話がありましたが、公民館についても施設の傷みが目立ちまして、例えば森吉コミュニティーセンターの外階段のブロックが落ちたり、屋根のシートが剥げたりして、今年は補正予算で対応しています。また、合川公民館についても空気の循環器がくたびれてきていて、29年度に修繕する予定です。いずれコムコム以外は年数が経っていますので、計画的な修繕・整備をしながら、公民館機能としてどうあるべきかをも併せて考えていきたいと思っています。</p>
<p>津谷市長</p>	<p>文化会館についても、トイレがあのままがいいのか、バリアフリー化しなければいけない状況にきているし、長期になるかもしれないが計画をお願いします。</p>
<p>永井委員長</p>	<p>ボランティアの高齢化のことで、100kmチャレンジマラソンに参加した人達がいつまで続けられるかという声を出している。これは私達の市にとっては非常に重要なイベントなので、いろんな手を使って継続していくべきだと考えています。また、北秋田市内に泊まりたいのだけれども泊まれない。だから他の方に行くとか、無理をしてでも迎えに来てもらって帰るといった人が多い。どういう方法が考えられるのかなと言ったら、少し無責任な話だが、まごころ国体の時のように、例えば北鷹高校のセミナーハウスに1,500円で宿泊できるようにし、食事は自分たちで摂るようにし、そして見張り番をボランティアで用意するとかというラフな考え方でもいいのではないかな。ちゃんとした宿泊はお金がかかることなので、既存の施設を活用した宿泊をPRすることができないのかなと思っています。</p>

水木スポーツ振興課長	<p>今年26回目ということで、平成元年から28年経過していますので、かなり高齢化になっています。それについてはボランティアの方々からも切実な声が挙がっていて、年齢が上がってきているのもう辞めたいという方もいますが、無責任な形で辞めたいと思っている方は少ないです。皆さん責任を持って最後までやりたいと思っていますので、地域の方々やいろんなスポーツ団体へ声かけをしながらボランティアを集めて継続して行きたいと思っています。</p> <p>宿泊に関しましては、スタートが角館、ゴールが鷹巣ということなので、どうしてもスタート地点の方の宿泊者が多くなります。その辺をどうにかできないかということで、今年度からスタート時間に合わせた内陸線を運行して、今回車両を2両運行し50名ほど利用しました。ただ、こちらの方も宿泊施設が少ないこともあり、施設の開放とかが可能であれば検討したいと思いますが、食事の提供とかもありますので簡単にはいかないと思います。事務局と相談しながら、知恵を出し合って、選手が良い方向に行けるように考えていきたいと思っています。</p>
佐藤委員	<p>100kmマラソンですが、スタートの比立内や角館、ゴールの鷹巣だけでなく、それぞれ地域で応援できるから盛り上がると思います。自分の地域で応援をしたり、協力出来るから良いのです。地域が元気になる一つの行事として、是非残してほしいです。腰曲がっても、老人カーを押しても見に来ていますし、前の日にゴミ拾いなどして迎える側としての大事な行動もしている。是非残して頑張してほしいと思います。</p>
津谷市長	<p>ただいまスポーツ振興編につきましても確認させていただきました。各課から説明していただいた(1)の案件につきましては今年度3月まで、そして来年度重点的に取り組んでいくことを確認いたしました。</p> <p>続きまして、案件(2)の意見交換ですが、特にテーマを限定しないで北秋田市の教育について、日ごろ感じていることや課題等があればお話いただければと思います。</p>
三澤教育長	<p>学校適正規模再編計画の円滑な推進の中で、パブリックコメントが4件と実施者不明のアンケート調査もいただき、それぞれの方々からコメントをいただきました。全部阿仁地区です。やはり相当強</p>

	<p>い危機感、阿仁から学校が無くなれば阿仁地区が無くなると、大多数が反対です。我々は現状の学校、子どもの数等トータルしてこのままで良いのか問題提起しているのであり、十分地域の方々のご意見を尊重しながら進めて行くという考え方です。従って、このような不安感を解消しなければいけないと思っています。新聞報道などが先行したため、やはり統合してしまうのかと思っているような感じがしています。もちろん我々は計画の中では年次を追って進めていくが、また15年後に問題提起してこのままの現状でいいのだろうかとか進めていく考えも一方にあるので、その辺の不安感を払拭なり解消していかないといけない。最初に賛成していた保護者も、だんだんと圧力がかかり言いにくい雰囲気になっているようです。</p>
佐藤委員	<p>若い人達はどうかと非常に不安を感じているようです。例えば小学校の低学年の保護者達です。「複式学級、複複式学級のモデル校にするっておかしくないですか。」「今大変な状況なのになぜモデル校なのですか。」「子どものことをもう少し考えてほしい。」という声が聞こえてきます。確かにそうですねとは言っていますが。</p>
三澤教育長	<p>親は我が子のことを考え、住民は地域のことを考え、全くかみ合わない。目指す視点が違うから、意見が千差万別なのは分かります。</p>
永井委員長	<p>坊沢地区の話をする、例えば小学校が無くなれば地域が衰退するということよりも、基幹産業である農業が成り立っていかなければ地域が無くなるとかなり前から発想を持った人達がいて、集落営農だとか農地の集約化とかに取り組んでいて、何十回も会議を開いてそれを推進していた。そういう背景があるから、そんなに鷹巣小学校と西小学校の統合には反対がなかった。そして今一番課題にしているのは、このままでは後継者が不足して、自分たちの地場産業である農業がどうなるのかというのに視点がいつている。そして、どうすれば省力化を図ることができるか、少しずつ前を向いて動いている。その坊沢の状況を考えれば、もう少し阿仁地域の方が視点を少し柔軟にすることができないのかと思う。そのような情報なども折に触れて提供していかなければいけない。絶対反対というところで、本来のこういう学校づくりをしたいというような再編プランの本質がきちんと議論されないで反対運動に終始しているのは非常に問題があると感じます。次の段階では我々も少しずつ出て行っ</p>

<p>三澤教育長</p>	<p>て、いろんな議論に関わっていくような姿勢を持つべきかと考えます。</p> <p>地域振興を考えると学校も一つのコミュニティだから大事に考えたいが、子どもがこんなに少なくなってもいつまでも学校がコミュニティなのか、学校以外にもコミュニティを作るとか、生き残るためにはどのような活性化を目指すのかを地域全体で考えていかなければならないだろうと思う。</p>
<p>松橋総務課長</p>	<p>根本は子どもを将来どうするのかという視点で話ししていると、阿仁の人達はそういう視点にはなっていない。そういう声が高い意見に保護者も引っ張られ、そちらに合わせざるを得ない雰囲気になっている。</p>
<p>遠藤学校教育課長</p>	<p>阿仁合小学校は、最初 PTA の総意で出来るだけ早い時期に前田小学校との統合を進めてほしいとなったのですが、今日電話が来て、12月2日にもう1回 PTA に来てほしいとのことです。総意をしてまとめたことに揺らいでいるようで、原因は地域の人達に言われたことだと思います。自分たちの出したものに自信がなくなって、たぶん総意を取り消すことになるだろう。ただそうなったとしても、そこまで反対されて強行突破ということはできないだろうと思います。何年かして、今30人前後の児童が10数人という時代が来るだろうが、その時になったらもう1回協議しましょう。それまで地元の人達も子どもの教育について十分考えてほしいなと思います。</p>
<p>松橋総務課長</p>	<p>特に比立内の人達は、学校が例えば前田小学校に行くのであれば親たちもそっちに引っ越すことになるので大変な問題だと話した人もいました。我々は反対のことを心配していて、少しでも教育熱心な親であれば、もう阿仁の小学校にいてもしょうがないからもっと大きな学校に通えるところに出て行くのではと心配している。地元の意向と反対のことを心配している。</p> <p>阿仁中 PTA の説明会に行ったとき、阿仁地区の親はどちらでもいいような話でしたが、比立内の親はやはり森吉中との統合にも反対でした。理由は通学時間が長くなるからとのことで、阿仁中から森吉中までバスで行っても15分位なのですが、ちょっとでも遠く</p>

三澤教育長	<p>に行きたくないようです。</p> <p>阿仁には阿仁の文化なり歴史があるというし、前田は前田のまた違った土地柄ですから、全く相容れないところがある。阿仁地区ではやはり学校を残してほしいという考え方が多数を占めているように思われる。</p>
遠藤学校教育課長	<p>来年度は生徒が46人から35人になり、5年後には28人の中学校になります。</p>
三澤教育長	<p>その位の生徒数しかいなくなれば、子ども達がかawaii思う。</p>
佐藤委員	<p>今学校祭では伝統芸能を守ろうとして一生懸命工夫してやっている。その伝統芸能には先生方も入ってやっている。来年、再来年にはその伝統芸能の継承活動も出来なくなるのではと心配している。</p>
三澤教育長	<p>そういった様々な方向から心配しているのだけれども。</p>
佐藤委員	<p>部活動も出来なくなってしまう。</p>
遠藤学校教育課長	<p>中学校の統合は納得してくれるのではないのかと思いますが、小学校はしょうがないのかなと感じています。</p>
三澤教育長	<p>いずれにしても柔軟に考えて進めない。</p>
津谷市長	<p>一応方向性は出していて、それに地域の人達から話をお聞きしてどうするかということを決めていくということになるだろうが、途中経過の段階で一人歩きしてしまっているところもあり、そうすると黒か白かをはっきりしなければならぬみたいな感じになり、昔のことを言われる方々もいて、やはりどこかで決めるべきところは決めなくてはいけないし、それが今なのかというとなかなか難しいことになってくると思っています。</p>
三澤教育長	<p>市長のところには直接話がありますか。</p>

津谷市長	<p>無いです。昔議員をやっていた方とか敬老式で会ったときに話をされたときはありますが、直接はありません。ただ、表明もまだしていませんが、市長選挙があれば市長選挙の争点にするとか話す人もいます。でもこの学校の問題を首長の選挙の争点にするのは如何なものかなと思います。</p> <p>それでは案件の方は終了しましたので、事務局に進行をお返しします。</p>
長崎次長	<p>ありがとうございました。続いて「その他」ございますが、お手元に配布しております校務支援システムに関しまして、学校教育課長から説明いたします。</p>
遠藤学校教育課長	<p><資料：校務支援システムの概要と導入の目的・効果の説明></p>
長崎次長	<p>その他何かございませんでしょうか。</p> <p>無いようですので、以上を持ちまして第2回北秋田市総合教育会議を閉会したいと思います。</p> <p>皆様、本日は誠にありがとうございました。</p>

(午後0時10分終了)